

日本英文学会事務局御中

「海外研究者招聘後援事業」申請書

事業：第 10 回国際ミルトン・シンポジウム

学会 HP：<http://www.aoyama.ac.jp/en/> の IMS10 バナーより

日程：2012 年 8 月 20 日（月）－24 日（金）

開催地：青山学院大学渋谷キャンパス

主催：青山学院大学文学部英米文学科

共催：日本ミルトン協会

後援：ブリティッシュ・カウンシル

主題：「エデンの東」

1981 年以来ジョン・ミルトン研究の促進と研究者間の交流を目的としてきた本シンポジウムは、第 10 回目にして初の東洋での開催となる。発表論文の募集にあたっては、ミルトンに関するいかなる主題によるものも広く受け付けたが、ミルトンの代表的叙事詩『失樂園』に準えれば、「エデンの東」に出て、東洋、日本の「東の都」たる東京で開催される意義を強調した大会を企画した。

規模：8 名の基調講演、100 名を越える個人の研究発表と 3 つのパネルディスカッション、ミルトン所縁の文化イベントと見学旅行、歓迎会と晚餐会から構成される。

学会参加者ばかりでなく一般客にも公開する 2 種の文化イベントを実施する。東西文化融合の試み・日本文化発信の好機として、ギリシア悲劇風のミルトンの劇詩『闘士サムソン』に基づく、詩人高橋睦郎氏台本の新作能『散尊』を国立能楽堂で上演する。またミルトンの普遍的な芸術性を披露する、イギリス人俳優によるミルトンの詩の朗読と詩に基づく音楽作品（ローズ、ヘンデル、ハイドン作曲）の朗読コンサート「ミルトンと音楽」を大学礼拝堂で行う。学会最終日に実施する旅行オプションでは、詩人と同時代にあたる江戸の文化を、都内と日光の観光によって紹介する。

内容：ミルトンを詩と思想の両面から、洋の東西から、過去と現在から、多角的に討議する。

基調講演者 8 名

研究発表者 外国人 105 名 日本人 17 名

上記以外の登録参加者 50－100 名程度が予想される。

(1) 海外基調講演者 7 名の講演タイトルと主要業績 3 点

Gordon Campbell (University of Leicester), “The Oxford Milton: Rethinking the Life and Text”

*The Oxford Dictionary of the Renaissance* (Oxford UP, 2003)

*Renaissance Art and Architects* (Oxford UP, 2004)

*The Story of the Bible: King James Version: 1611-2011* (Oxford UP, 2011)

John Coffey (University of Leicester), “Milton and the Politics of Jesus: From Regicide to Restoration”

*John Goodwin and the Puritan Revolution* (Boydell and Brewer, 2006)

(co-ed) *The Cambridge Companion to Puritanism* (Cambridge UP, 2008)

(co-ed) *Seeing Things their Way: Intellectual History and the Return of Religion* (U of Notre Dame P, 2009)

Thomas Corns (Bangor University), “Milton’s Global Reach”

*Milton’s Language* (Blackwell, 1990)

*Regaining Paradise Lost* (Longman, 1994)

(with Gordon Campbell) *John Milton: Life, Work, and Thought* (Blackwell, 2008)

John Leonard (University of Western Ontario), “Lodge and Dislodge by Turns”: Rethinking the Milton Controversy”

*Naming in Paradise: Milton and the Language of Adam and Eve* (OUP, 1990)

(ed) *John Milton: Complete Poems* (Penguin, 1998)

(ed) *Paradise Lost* (Penguin, 2000)

Barbara Lewalski (Harvard University): “Milton: The Muse, the Spirit, the Prophets, and Prophetic Poetry”

*“Paradise Lost” and the Rhetoric of Literary Forms* (Princeton, 1985)

*Renaissance Genres: Essays on Theory, History and Interpretation* (Harvard UP, 1986)

*The Life of John Milton: A Critical Biography* (Blackwell, 2000)

Leah Marcus (Vanderbilt University), “The Ecocritical Milton”

*The Politics of Mirth: Jonson, Herrick, Milton, Marvell, and the Defense of Old Holiday Pastimes* (U of Chicago P, 1986)

*Unediting the Renaissance: Shakespeare, Marlowe, Milton* (Routledge, 1996)

(ed) *Elizabeth I: Collected Works* (U of Chicago P, 2000)

Debora Shuger (University of California at Los Angeles), “Portrait of the Artist as a Young?”

(co-ed) *Religion and Culture in Renaissance England* (Cambridge UP, 1997)

*Political Theologies in Shakespeare’s England: the Sacred and the State in “Measure for Measure”* (Palgrave, 2001)

*Censorship and Cultural Sensibility: the Regulation of Language in Tudor-Stuart England* (U of Pennsylvania P, 2006)

(2) 申請者

佐野弘子 (主催団体) 青山学院大学文学部英米文学科教授

圓月勝博 (共催団体) 日本ミルトン協会会長・同志社大学文学部英文学科学教授

以上の 2 名を含み、日本人研究発表者の大半が日本英文学会会員である。

(3) 海外から招聘する 7 名の基調講演者の以下の経費を学会が負担する。

宿泊費 17,850 円×6 泊×7 名=749,700 円

登録参加費 24,000 円×7 名=168,000 円

計 917,700 円

第 10 回国際ミルトン・シンポジウム実行委員長

佐野弘子